

2013年3月期決算 決算説明会 Q&A (要旨)

【2013年3月期決算の業績について】

Q：第4四半期に利益率が低下している要因は？

A：産業 IT ソリューションセグメントは、システム開発プロジェクトの収益性が改善したため利益率が上昇した。一方、ソフトウェアの評価減をおこなったことや、新データセンターの開業に伴い減価償却費が増加したこと、データセンター設備の一部除却をおこなったことなどで、金融 IT ソリューションセグメントや IT 基盤サービスセグメントの利益率が下がったこともあり、全体としては利益率が低下した。

Q：株式市場の活況による運用サービス収入（ボリューム連動料金部分）の増加は、前年同期比でどの程度収益に貢献したか？

A：前4Qも株式市場は活況だったこともあり、収益に貢献はしているが今のところそれほど大きくない。足元の株式市場の取引ボリュームが年間を通じて続けば、寄与はより大きくなる。金額の詳細については開示していない。

【2014年3月期の業績見通しについて】

Q：金融 IT ソリューションセグメントの受注残高が、増加している要因は？

A：プラスの主な要因としては、2013年3月末の受注残高に、証券業主要顧客向けの共同利用型サービスの年間利用料分が加わっている。また、同顧客向けの国内システム刷新に向けた次のステップの受注も一部入ってきている。一方、マイナスの主な要因としては、2012年3月末に含まれていた証券業主要顧客への STAR-IV 導入に関わる SI の受注残高が消化されて減少した影響があるが、トータルとしては増加している。

Q：セグメント別売上高予想のうち、証券業向けが前期比で減収となる要因は？

A：2013年3月期の証券業向け売上高には、主要顧客向け製品販売の特需的な売上高が含まれていた。その分の反動が主要因。主要顧客以外の証券業向けの売上高は増える見通し。

Q：セグメント別売上高予想のうち、保険業向けが前期比で増収となる要因は？

A：保険業既存顧客向けで、大型システム開発案件を含め、複数案件の受注を見込んでいる。

・本資料は、2013年3月期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

Q: 利益はもっと増加が期待できるのではないかと追加コストなど何か特殊なマイナス要因を見込んでいるのか?

A: 現時点で何か特別なコスト増 (不採算など) を業績予想に見込んでいるわけではない。

以上

・本資料は、2013年3月期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。